# 古書のたのしみ（令和六年十月）

土屋　博

**一「古今集正義」香川景樹大人著**

（しきしま發行所、明治二十六年刊、四二六頁）

古書價格二百圓也。香川景樹（一七六八年因幡國生れ、一八四三年歿）は、江戸後期の歌人。二十六歳にて上洛、その後二條派歌人香川景柄の養子となる。

たとへば、在原業平の「世の中にたえてさくらのなかりせは春の心はのどけからまし」については、「櫻といふ物たえてなき世の中なりせば、春の人の心はいとものどやかならましをと餘りにいそがはしう浮たてる時めき心よりいへる嘆息也」と。

**二「新註　古今和歌集講義　上下」増田于信先生・生天目経徳先生講述**

（誠之堂、明治三十八年六版、正價金六十錢、上巻二一六頁＋下巻二二八頁）

古書價格五百圓也。増田于信は、源氏物語の梗概書「新編紫史」全十巻の著者として名高し。

**三「新古今和歌集遠鏡」佐佐木信綱閲、鴻巣盛廣著**

（博文館、明治四十三年刊、定價金壹圓貳拾錢、六二六頁）

古書價格九百圓也。本居宣長の「古今和歌集遠鏡」に倣ひ、初學のため俗言を以て新古今集の口語譯に挑戰したる力作なり。佐佐木信綱、序に曰く、「和歌の歴史を通觀するに、光彩陸離たる黄金時代は、前に萬葉集時代、後に新古今集時代あり」と。

たとへば、攝政太政大臣の冒頭歌「みよし野は山も霞みて白雪の降りにし里に春は來にけり」については、「吉野は川や野や里は言ふ迄もなく、山迄も霞が懸つて、此間迄雪が降つて居た故里にも春が來たわい」と。

鴻巣盛廣は、鹿児島の舊制七高及び金澤の四高教授。

**四「標注參考　新古今和歌集　全」飯田武郷先生校閲、飯田永夫先生標注、濱野知三郎先生校訂**（六郷館藏版、昭和三年第五版、定價金壹圓貳拾錢、本文三七〇頁）

古書價格五百圓也。初版明治二十六年。飯田武郷（たけさと）は東京大學教授、日本書紀の權威。濱野知三郎は東京高等師範卒の漢學者。

**五「増訂　國文學史總説」文學博士藤村作著**

（中興館、昭和三年十一版、定價金貳圓五拾錢、本文三六〇頁）

古書價格二百圓也。初版は大正十五年。藤村作（つくる）（一八七五年生れ、一九五三年歿）は、福岡縣柳川の出身、東京帝大國文科教授。

**六「定家歌集評釋」文學士谷鼎著**

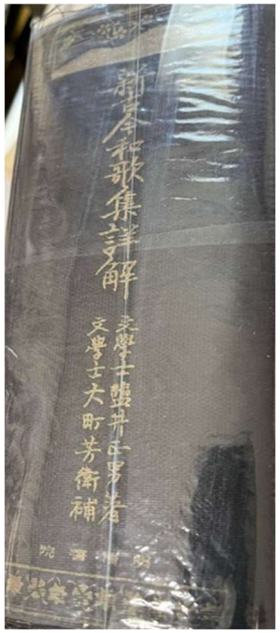
古書價価格九百圓也。谷鼎（一八九六年生れ、一九六〇年歿）は、東京師範卒業後、京都大學を卒業。大東文化大學教授。

**七「新古今和歌集詳解」文學士鹽井正男（雨江）著、文學士大町芳衛（桂月）補**

（明治書院、昭和十八年十七版、一四四二頁）

古書價格五百圓也。改版初版大正十四年、元の初版は明治三十年。大町桂月、改版の序に曰く、「鹽井雨江世を去つてより既に十三年、その著新古今和歌集詳解、今もなほ世に行はる。嗚呼雨江未だ死せざる哉。雨江の學窻を出でたるは明治二十八年にして、世を去りたるは大正二年也。その間十九年に過ぎず。一方には教鞭を執りて、目白の女子大學、奈良の女子高等師範學校などに國文を教へ、一方には筆を執りて美文韻文を作り、種々の著述をものせり。この新古今和歌集詳解は、其の著述中にて、最も力を注ぎたるもの也」と。

一九八一首の全釋は畫期的。




**八「國文學研究書目解題」麻生磯次編**

（至文堂、昭和三十二年刊、定價金七百圓、五〇六頁）

古書價格五百圓也。麻生磯次（一八九六年生れ、一九七九年歿）は、東京帝國大學文學部を卒業後、旧制六高教授、京城帝大教授、一高教授、一高校長を經て、東大教授、學習院長。

**九「本居宣長全集第三集」**

（筑摩書房、昭和四十四年刊、六三八頁）

古書價格五百圓也。「古今集遠鏡」及び「新古今集美濃の家づと」を收錄す。本居宣長（一七三〇年生れ、一八〇一年歿）は、「國學の四大人（しうし）」の一人。（荷田春滿、賀茂眞淵、平田篤胤と共に）

**十「國文學研究書目解題」市古貞次編**

（東京大學出版會、昭和五十二年刊、定價八千圓、七三九頁）

古書價格二百圓也。市古貞次（一九一一年生れ、二〇〇四年歿）は、東大教授。日本文學研究者として初めての文化勲章受章。（國書總目錄編纂の功績により）

鹽井雨江の新古今和歌集詳解の欄をみるに、初版の紙型關東大震災にて燒失したる爲、義兄大町桂月補訂版を出したること、判明す。

**十一「古今集遠鏡　一、二」本居宣長著、今西祐一郎校注**

（平凡社東洋文庫、平成二十年刊、定價五千五百圓、一巻二三六頁、二巻三〇〇頁）

古書價格五千五百圓也。解説によらば、遠鏡とは、望遠鏡にて覗いてみれば、遠くの高山の木々の枝の長短、葉の色づきの濃淡まで手に取る如くに解る。遠い昔の和歌を今の世の俗語に譯するに同じ、と。

（令和六年十月十三日受附）